



# 京葉工場

## 1. 事業概要

京葉工場は、船橋事業所と市川事業所からなり、以下の製品を供給しています。

<b>住所</b>	船橋事業所: 〒273-0018 千葉県船橋市栄町2丁目16番1号 流通加工センター: 〒273-0014 千葉県船橋市高瀬町30番地 市川事業所: 〒272-0011 千葉県市川市高谷新町4番地	
	<b>従業員数 (協力会社)</b>	
<b>敷地面積</b>	船橋事業所	567名 (H27.4.1現在)
	流通加工センター	37名 (H27.4.1現在)
	市川事業所	157名(92) (H27.4.1現在)
<b>敷地面積</b>	船橋事業所	30.1万㎡
	流通加工センター	4.5万㎡
	市川事業所	6.2万㎡
<b>事業内容</b>	船橋:ダクタイル鉄管の製造 流通加工センター: 製品置場・物流基地 市川: スパイラル鋼管の製造	
<b>主要製品</b>	 船橋:ダクタイル鋳鉄直管	
	 市川: ガンテツパイル	



## 工場変遷 (沿革)

<b>船橋</b>	<b>市川</b>
1960年 船橋工場を新設	1967年 スパイラル鋼管生産開始
1963年 ダクタイル管製造開始	1972年 クボタ市川工場となる
<b>京葉</b> ↓	↙
2002年 両工場を統合し、京葉工場に改称	
2011年 行徳加工センターを閉鎖し、その機能を市川事業所及び船橋流通加工センターに移管	

## 京葉工場

### 2.環境・労働安全衛生方針

#### 京葉工場 環境・労働安全衛生方針

- 1) 環境マネジメントシステム (ISO 14001) 並びに労働安全衛生マネジメントシステム (OHSAS 18001) を確立・維持し、ダクタイル鋳鉄管・ダクタイル鋳鉄異形管及び付属品、スパイラル鋼管の製造において、環境の保全と労働安全衛生に配慮した企業活動を実施します。
- 2) 国、地方自治体等の規制及び工場が同意したその他の要求事項を遵守することに努めます。
- 3) 原材料の購入から製造、出荷に至る生産活動、製品及び付帯するサービスの各段階において汚染の予防に努めます。また、環境マネジメントシステムを継続的に改善することによって、生産方法の改善、使用原料の見直し等を図り、長期的で幅広い観点から環境負荷の継続的改善に努めます。
- 4) 傷害及び疾病の予防を含む労働安全衛生マネジメントシステムを継続的に改善することによって、労働安全衛生パフォーマンスの向上と継続的改善に努めます。
- 5) 本方針を実践するための具体的な目標及び施策を策定し、その実施状況を定期的に評価し、見直しを行うことに努めます。
- 6) この方針を工場の全従業員及び来訪者・利害関係者に周知させると共に、環境保全と労働安全衛生に対する意識の高揚に努めます。
- 7) 地域での環境保全活動並びに労働安全衛生活動への参画、支援に積極的に取り組み、地域との共生に努めます。またこの方針は公表します。

2013年10月1日 京葉工場長

#### ISO認証取得状況

京葉工場はISO 14001の認証を1998年7月に取得しました。国内の鉄管メーカーとして、また、船橋市内の事業所として最初の認証取得です。クボタとしては、2001年3月末で国内全事業所での取得を完了しました。

さらに、京葉工場は、既にISO 9001(品質)の認証を1994年2月に取得しており、2002年12月には、OHSAS18001(安全衛生)の認証を取得しました。

2010年5月には、クボタグループの環境保全への取り組みについて、「エコ・ファースト企業」として認定されました。「エコ・ファースト制度」は、環境保全に関する業界トップランナー企業の行動を促進していくために、企業が環境大臣に対して自らの環境保全に関する取り組みを約束し、その目標や実現のための取り組みが、業界のトップランナーとしての先進性を有すると判断される場合、「エコ・ファースト企業」として認定する制度です

# 京葉工場

## 3.環境保全中期計画 目標及び実績(船橋)

課題	取り込み項目	管理指標	基準年度	目標 2015年度※4	2014年度	
					実績※4	自己評価※5
地球温暖化の防止	CO2の削減	CO2排出原単位※2	2008	▲14%	▲20.9%	◎
	省エネルギー	エネルギー使用原単位	2008	▲14%	▲21.5%	◎
循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出原単位	2008	▲14%	▲28.2%	◎
		再資源化率※3	-	99.5%以上	99.9%	○
	水資源の節約	水使用原単位	2008	▲21%	▲36.2%	◎
化学物質の管理	VOC※1の削減	VOC排出原単位	2008	▲21%	▲20.1%	△

※1 VOC(揮発性有機化合物)は、排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象としています。

※2 CO2排出量には非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は基準年度の値を使用します。

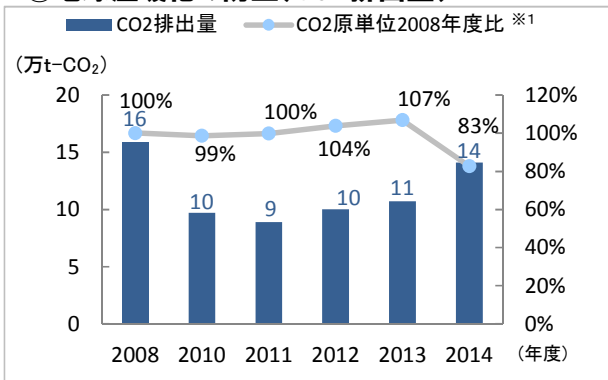
※3 再資源化率(%)=(有価物売却量+社外再資源化量)÷(有価物売却量+社外再資源化量+埋立量)×100  
社外再資源化量には熱回収量を含みます。

※4 ▲は「マイナス」を意味します。

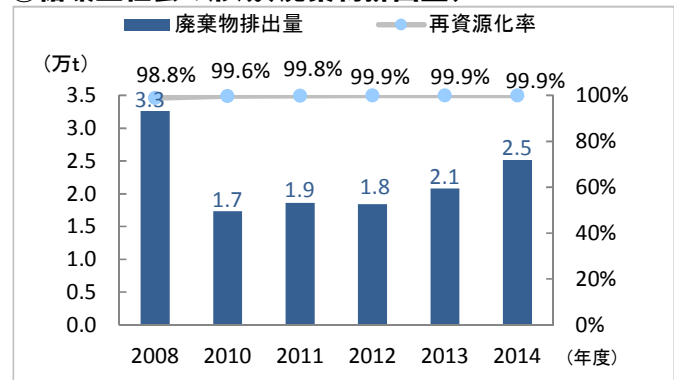
※5 自己評価の基準 ◎目標超過達成(目標を20%以上超過している場合) ○目標達成 △現状では未達成

## 4.環境パフォーマンス(船橋)

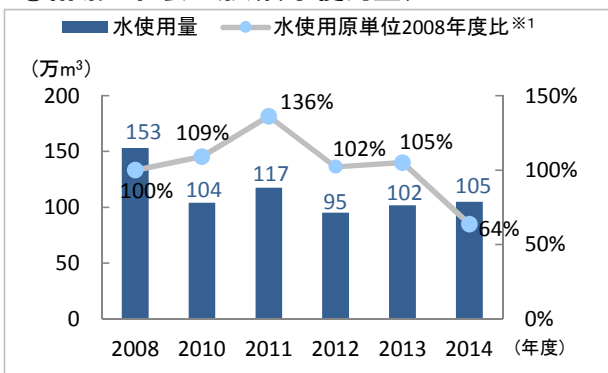
### ①地球温暖化の防止(CO2排出量)※2



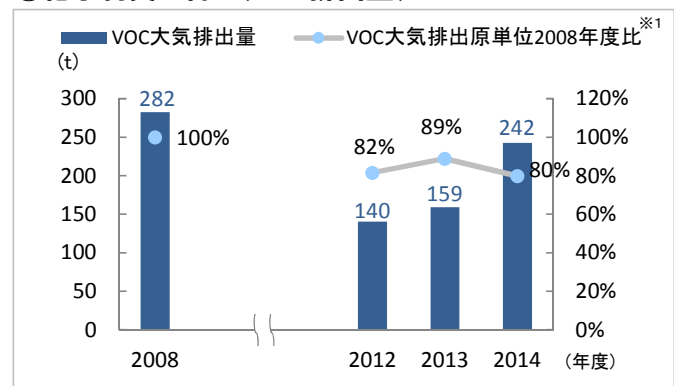
### ②循環型社会の形成(廃棄物排出量)



### ③循環型社会の形成(水使用量)



### ④化学物質の管理(VOC排出量)



※1 原単位2008年度比:2008年度の生産トン数ベースの原単位を100とした場合の割合

※2 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

## 5.環境保全中期計画 目標及び実績(市川)

課題	取り込み項目	管理指標	基準年度	目標 2015年度 <sup>※4</sup>	2014年度	
					実績 <sup>※4</sup>	自己評価 <sup>※5</sup>
地球温暖化の防止	CO2の削減	CO2排出原単位 <sup>※2</sup>	2008	▲14%	+18.6%	△
	省エネルギー	エネルギー使用原単位	2008	▲14%	+2.8%	△
循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出原単位	2008	▲14%	▲50.6%	◎
		再資源化率 <sup>※3</sup>	-	99.5%以上	99.8%	○
	水資源の節約	水使用原単位	2008	▲21%	+4.8%	△
化学物質の管理	VOC <sup>※1</sup> の削減	VOC排出原単位	2008	▲21%	100.0%	◎

※1 VOC(揮発性有機化合物)は、排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象としています。

※2 CO2排出量には非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は基準年度の値を使用します。

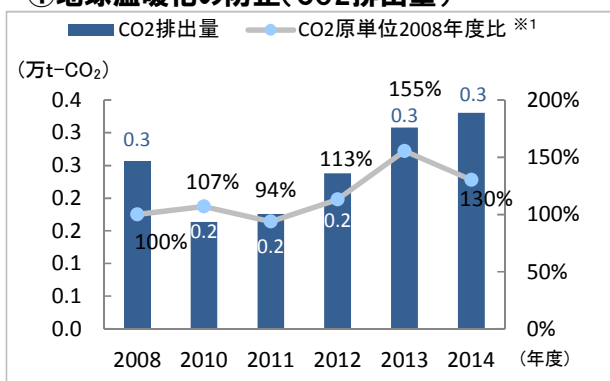
※3 再資源化率(%)=(有価物売却量+社外再資源化量)÷(有価物売却量+社外再資源化量+埋立量)×100  
社外再資源化量には熱回収量を含みます。

※4 ▲は「マイナス」を意味します。

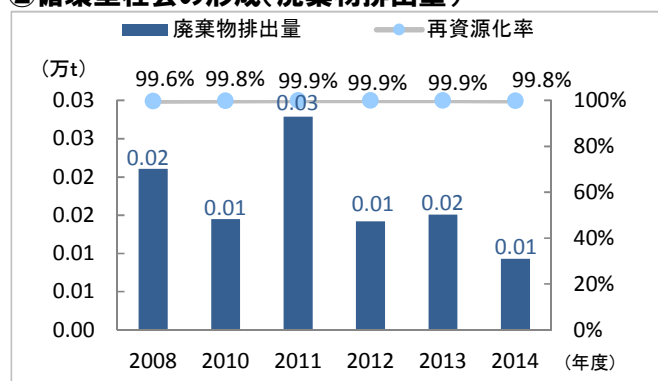
※5 自己評価の基準 ◎目標超過達成(目標を20%以上超過している場合) ○目標達成 △現状では未達成

## 6.環境パフォーマンス(市川)

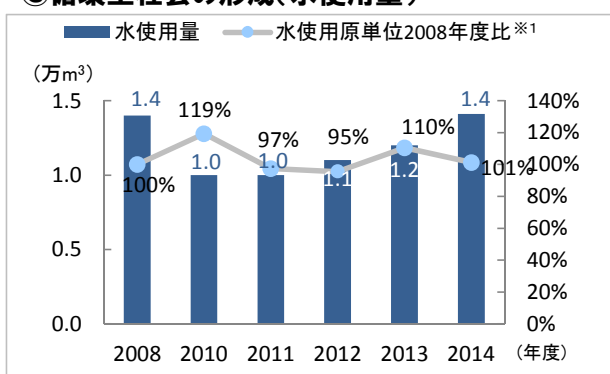
### ①地球温暖化の防止(CO2排出量)<sup>※2</sup>



### ②循環型社会の形成(廃棄物排出量)



### ③循環型社会の形成(水使用量)



※1 原単位2008年度比:2008年度の生産トン数ベースの原単位を100とした場合の割合

※2 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

## 京葉工場

## 7.環境パフォーマンス(PRTR法対象物質集計結果)

## PRTR法対象物質の排出量・移動量の削減(2014年度)

単位：kg/年

事業所名称	政令No.	物質名称	排出量				移動量	
			大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
京葉工場 (船橋)	53	エチルベンゼン	42,486	0.0	0.0	0.0	0.0	858
	80	キシレン	55,159	0.0	0.0	0.0	0.0	1,088
	87	クロム及び3価クロム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
	277	トリエチルアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	296	1,2,4-トリメチルベンゼン	3,130	0.0	0.0	0.0	0.0	30
	297	1,3,5-トリメチルベンゼン	1,043	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5
	300	トルエン	109,881	0.00	0.0	0.0	0.0	2,006
	305	鉛化合物	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0
	308	ニッケル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22
	349	フェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	354	フタル酸ジ-N-ブチル	52	0.0	0.0	0.0	0.0	109
	412	マンガン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32,673
	448	メチレンビス(4,1-フェニレン)＝ジイソシアネート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
京葉工場 (流通加工センター)	53	エチルベンゼン	5,319	0.0	0.0	0.0	0.0	109
	80	キシレン	20,884	0.0	0.0	0.0	0.0	426
	300	トルエン	4,541	0.0	0.0	0.0	0.0	93
京葉工場 (市川)	412	マンガン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 8.環境コミュニケーション



地域の美化活動に積極的に取り組んでいます

★クリーン作戦 毎月1回実施 船橋事業所(栄町)及び流通加工センター(高瀬町)周辺

★公道ボランティア 2回/年実施 市川事業所(高谷新町)周辺





## 京葉工場

## 10.サイトデータ(船橋)

## INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	45,403
水使用量	万m <sup>3</sup>	104.8

## OUTPUT

エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	140,998
----------------------------	-------------------	---------

項目	主要ばい煙発生施設		溶解炉		
	単位		規制内容	規制値	測定値
排出ガス	SOx	総量規制・K値規制とも にm <sup>3</sup> N/h	総量規制	39.8	1.97
	NOx	総量規制:m <sup>3</sup> N/h, 濃度規制:ppm	総量規制	26.7	6.68
	ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	濃度規制	0.1	0.003

排水量	公共用水域 万m <sup>3</sup>	120.1	
	下水道 万m <sup>3</sup>	-	
汚濁負荷量	COD	kg/年	4.8
	窒素	kg/年	2.9
	りん	kg/年	0.037

放流先	項目	単位	排水口名	
			規制値	測定値
公共用水域	pH	最小値, 最大値	5.0~9.0	6.4, 8.0
	BOD	mg/l	-	-
	COD	mg/l	20	2
	窒素	mg/l	20	4
	りん	mg/l	2	0.06
	六価クロム	mg/l	0.05	0.02
	鉛	mg/l	0.1	0.01
	COD総量規制値	kg/日	110.5	17.2
	窒素総量規制値	kg/日	114.7	10.00
	りん総量規制値	kg/日	11.65	0.32
	下水道	pH	最小値, 最大値	-
BOD		mg/l	-	-
COD		mg/l	-	-
SS		mg/l	-	-

廃棄物排出量	t	25,176
再資源化率	%	99.9%

## 京葉工場

## 11.サイトデータ(市川)

## INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	1,538
水使用量	万m <sup>3</sup>	1.4

## OUTPUT

エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	3,306
----------------------------	-------------------	-------

主要ばい煙発生施設		-		
項目	単位	規制内容	規制値	測定値
排出ガス	SOx	総量規制・K値規制 ともにm <sup>3</sup> N/h	ばい煙発生施設なし	
	NOx	総量規制:m <sup>3</sup> N/h, 濃度規制:ppm		
	ばいじん	g/m <sup>3</sup> N		

排水量	公共用水域 万m <sup>3</sup>	4.3	
	下水道 万m <sup>3</sup>	-	
汚濁負荷量	COD	kg/年	94.48
	窒素	kg/年	116.6
	りん	kg/年	11.5

排水	放流先	項目	単位	排水口名	
				規制値	測定値
公共用水域		pH	最小値, 最大値	5.0~9.0	6.9, 7.8
		BOD	mg/ℓ	60	22
		COD	mg/ℓ	60	15
		窒素	mg/ℓ	70	20
		りん	mg/ℓ	7	2
		六価クロム	mg/ℓ	-	-
		鉛	mg/ℓ	0.1	ND
		COD総量規制値	kg/日	4	0.5
		窒素総量規制値	kg/日	2.865	0.56
		りん総量規制値	kg/日	0.391	0.05
		下水道		pH	最小値, 最大値
BOD	mg/ℓ			-	-
COD	mg/ℓ			-	-
SS	mg/ℓ			-	-

廃棄物排出量	t	93
再資源化率	%	99.8%



【ご参考】

「クボタグループ 環境報告書作成要領」サイトレポートに記載すべき項目のうち、必須事項

No.	項目	チェック欄	備考
1	事業所概要(住所、従業員数、敷地面積)		
2	事業概要(事業内容、主要製品)		
3	事業所変遷(沿革)		
4	事業所環境方針		
5	ISO14001取得状況		
6	環境行動計画、目標、実績等の要約		
7	環境トピックス		
8	<del>環境会計(環境投資、環境保全費用、環境保全効果、経済効果等)</del>		
9	インプット・アウトプット:(受水量・排水量、COD・窒素・りん汚濁負荷量、エネルギー使用量(原油換算)、CO <sub>2</sub> ・SO <sub>x</sub> ・NO <sub>x</sub> 排出量、廃棄物排出量・最終処分量・埋立比率)		
10	温暖化(エネルギー使用量、温室効果ガス・CO <sub>2</sub> 排出量、低減活動)		
11	廃棄物(総排出量、最終処分される量、有価物売却量、埋立比率、低減活動)		
12	化学物質(VOC大気排出量、PRTR法対象物質の排出量・移動量、低減活動)		
13	環境コミュニケーション、地域美化活動		
14	環境関連法違反により行政から是正措置を受けた場合はその対応状況と再発防止策		

※グローバル化に伴い、環境報告書作成要領から削除予定。

2013年度エネルギー起源CO2排出量  
 (2008年度電力係数使用) kg 103834252.8 KEDES  
 (2013年度電力係数使用)kg 107340695.5 KEDES  
  
 2013年度非エネCO2排出量 kg 1920938 環境管理概要  
  
 合計 105755190.8  
  
 2013年度エネルギー起源CO2排出量  
 (2008年度電力係数使用) ton 158637

項目	単位	2008	2009	2010
内作生産t数		168952	142956	105092

2011	2012	2013
95142.44	102819.6	107040